

鈴鹿工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	ディジタル回路	
科目基礎情報							
科目番号	0076		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	電気電子工学科		対象学年		4		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	教科書:「ディジタル電子回路ー集積回路化時代のー第2版」藤井 信生著(オーム社) 参考書:「トランジスタ回路入門講座5 ディジタル回路の考え方」雨宮・小柴監修, 清水・曽和共著(オーム社)						
担当教員	川口 雅司						
到達目標							
ディジタル回路の基本的事項として, 論理関数, 真理値表, タイミング図などを理解し, これらを組合せ回路の解析に適用でき, 説明することができる.							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		論理関数, 真理値表, タイミング図などを理解し, 応用できる.		論理関数, 真理値表, タイミング図などを理解している.		論理関数, 真理値表, タイミング図などを理解していない.	
評価項目2		評価項目1を用いて応用的な組合せ回路の解析に適用できる.		評価項目1を用いて基本的な組合せ回路の解析に適用できる.		評価項目1を用いて基本的な組合せ回路の解析に適用できない.	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		アナログ電子回路の特別な二つの状態を扱う回路としてディジタル回路をとらえ, この回路を理解し, 解析・設計するために, 論理関数, 真理値表, タイミング図の考えを習得する. これらを用いて組合せ回路, フリップフロップを理解することを目標とする.					
授業の進め方・方法		・すべての内容は, 学習・教育到達目標(B)<専門>に対応する. ・授業は講義形式で行う. 講義中は集中して聴講する. ・「授業計画」における各週の「到達目標」はこの授業で習得する「知識・能力」に相当するものとする.					
注意点		〈到達目標の評価方法と基準〉下記授業計画の「到達目標」を網羅した問題を中間試験および定期試験で出題し, 目標の達成度を評価する. 各到達目標に関する重みは同じである. 合計点の60%の得点で, 目標の達成を確認できるレベルの試験を課す. 〈学業成績の評価方法および評価基準〉前期中間, 前期末の2回の試験の平均点で評価する. レポート・小テストを課した場合は, 学業成績の15%を上限として評価に組み入れることがある. なお, 前期中間試験について60点に達していない者には再試験を課すことがある. 前期末試験については30点に達した者に限り再試験を課すことがある. 再試験の成績は上限を60点として評価する. 〈あらかじめ要求される基礎知識の範囲〉4年次までに学習した電子回路とディジタル回路の基礎知識の習得が必要である. 〈レポート等〉理解を深めるため, 必要に応じて演習課題等を与える. 〈備考〉教科書中に問や演習問題が多くある. 各自復習でこれらの問題を解くこと. 数多くの演習問題に取り組むことが, 実力をつけるための一番の近道である. 本教科は後に学習する通信理論, 情報通信工学の基礎となる教科である.					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	トランジスタの2値動作ー1ー		1. トランジスタの2値動作について説明できる.		
		2週	トランジスタの2値動作ー2ー		上記1.		
		3週	2値動作回路と2進符号ー1ー		2. 2値動作回路と2進符号について説明できる.		
		4週	2値動作回路と2進符号ー2ー		上記2.		
		5週	論理関数ー1ー		3. 3種の論理関数, 論理関数・真理値表・論理回路の相互関係, ブール代数について説明できる.		
		6週	論理関数ー2ー		上記3.		
		7週	論理関数ー3ー		上記3.		
		8週	前期中間試験		これまでに学習した内容(上記1~3)を説明し, 諸量を求めることができる.		
	2ndQ	9週	組合せ論理回路の解析ー1ー		4. 組合せ論理回路の解析, ドモルガンの等価ゲートを用いた変換について説明できる.		
		10週	組合せ論理回路の解析ー2ー		上記4.		
		11週	組合せ論理回路の実現と簡単化ー1ー積和形と和積形の組合せ論理回路の実現とカルノー図を用いた論理関数の簡単化		5. 組合せ論理回路の実現とカルノー図およびクワインマクスキーの方法を用いた論理関数の簡単化ができる.		
		12週	組合せ論理回路の実現と簡単化ー2ークワインマクスキーの方法を用いた論理関数の簡単化		上記5.		
		13週	組合せ論理回路の例ー1ー半加算器, 全加算器, 7セグメント表示回路		6. 組み合わせ論理回路の実例について説明できる.		
		14週	組合せ論理回路の例ー2ーデコーダとエンコーダ, マルチプレクサ, PAL, FPGA		上記6.		
		15週	演習		これまでに学習した内容(上記4~6)を説明できる.		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							

	試験	課題	相互評価	態度	発表	その他	合計
総合評価割合	100	0	0	0	0	0	100
試験	85	0	0	0	0	0	85
課題	15	0	0	0	0	0	15